

[令和6年度以降入学者]

人文社会芸術総合研究科 三つのポリシー（プログラム別）

（プログラム名をクリックしてください。）

[人文社会芸術総合研究科-心理学プログラム](#)

[人文社会芸術総合研究科-人文・芸術プログラム](#)

[人文社会芸術総合研究科-共創経済プログラム](#)

<p style="text-align: center;">大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;">研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的</p> <p>「“人”と“地”の健康」について心の専門家の視点で地域課題を解決する。</p>
---	--

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 心理学に関連する多様な分野に関する基盤的能力とともに、心理学の高度な専門的学識、多角的な洞察力及び専門性を要する職業に必要な実践力を有し、高い倫理観と豊かな想像力を持ち、心理学を発展させ、その成果を社会に還元することのできる能力を備えた者に修士(心理学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 本プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示した能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 授業は講義・演習・実習の形態で実施し、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとする。心理学が取り組む現代的な課題について幅広い知識を体系的に身に付けるとともに、実践的な手続きについても演習や実習を通じて身に付けることができる教育課程を編成する。その評価は各能力における学修成果の到達目標に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて行う。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 心理学についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 多様な学生を受け入れるため、社会人入試及び外国人留学生入試、外国人留学生特別入試(指定校推薦)を実施する。 一般入試(前期日程・後期日程) 筆記試験、口述試験、学業成績証明書及び志望理由書、研究計画書等を総合的に評価する。 社会人入試 筆記試験、口述試験、学業成績証明書及び志望理由書、研究計画書等を総合的に評価する。 外国人留学生入試 筆記試験、口述試験、学業成績証明書及び志望理由書、研究計画書等を総合的に評価する。 外国人留学生特別入試(指定校推薦) 書類審査、口述試験等を総合的に評価する。</p>
【到達目標及び到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 心理学に関連する諸分野に関する基盤的学識や、論理的思考力及び俯瞰力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 共通科目において、複数の科目群より定められた単位数以上の科目を修得している。</p>	<p>【学修内容】 研究科共通科目の単位を2単位以上修得する。</p> <p>【学修方法】 講義・演習・実習形式の授業により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 各科目のシラバスに明記した基準により、客観的に到達度を判定し、成績評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 本プログラムにおいて学修するために必要かつ十分な基礎学力を備えている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 心理学分野における高い研究能力、または高度の専門性を要する職業に必要な実践的能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 自らの専門分野に関する専門科目の単位を修得している。かつ修士論文の審査に合格している。</p>	<p>【学修内容】 公認心理師法施行規則に定められた科目を中心に、専門的知識及び技能を身に着ける。または、2年次以降の「特論」で、心理学分野の専門的な知識や方法論などを学び、「特論演習」で、文献・資料などの高度な読解力、実験、調査、及び検査の手法、データの分析方法等を修得する。</p> <p>【学修方法】 主指導教員を中心とした研究課題に沿った指導により専門科目の単位を修得する。かつ「修士論文」の審査に合格する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポートにより、到達度を客観的に評価する。「修士論文」は複数の教員の講評をもとに成績評価をする。</p>	<p>【求める資質・能力】 心理学についての強い関心と基礎的な知識及び研究能力を有している。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 研究倫理に関する規範意識を身に付けている。また、高度の専門性を要する職業に必要な倫理規範を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 研究倫理に則り、修士論文を完成させることができる。</p>	<p>【学修内容】 研究倫理に関する規範意識を、他分野の事例も参照しつつ、心理学分野における事例に基づき学修する。</p> <p>【学修方法】 主指導教員を中心として、複数の教員からの指導を通して、学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 修士論文は、審査の客観性を保つと同時に多面的な評価を行うために、複数の審査員によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 心理学の知見と高い倫理観に基づき、社会に貢献しようとする強い意欲を備えている。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 心理学の基礎的、応用的、あるいは実践的に新たな知を見出し、その知から更なる価値を生み出す能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 新たな知を提示し、かつ新たな価値の創造につながる修士論文を完成させている。</p>	<p>【学修内容】 「課題研究」においては、主指導教員を中心として、複数の教員による多面的指導を通して、新たな知見の獲得、価値の創造に導く学修を行う。</p> <p>【学修方法】 「課題研究」における主指導教員を中心とした複数教員による多面的指導を通して修士論文を完成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 修士論文は、審査の客観性を保つと同時に多面的な評価を行うために、複数の審査員によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 論理的思考力と創造性を持ち、心理学の進展に寄与しようとする強い意欲を備えている。</p>

人文社会芸術総合研究科(人文・芸術プログラム)の三つのポリシー 【修士(文学, 芸術文化学)】

<p style="text-align: center;">大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p style="text-align: center;">研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的</p> <p>本プログラムは、文化的多様性の深い理解に基づき「人」と「地」の健康」を実現する高度専門家養成機関として貢献する。</p>
---	---

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】 本プログラムは、幅広い分野に関する基盤的能力を有し、人文、芸術に関わる諸分野についての高度な専門的学識、高い倫理観と豊かな創造力を備えることにより、人文、芸術に関わる諸分野を発展させ、その成果を社会に還元することのできる能力を備えた者に修士(文学)又は修士(芸術文化学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 本プログラムでは、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に示した能力を修得させるため、体系的な教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 授業は講義・演習・実習・実技等の方法・形態により行い、学生が主体的・能動的に学ぶことができるものとする。その評価は各能力における学修成果の到達目標に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて行う。</p>	<p>【入学受入れの方針】 人文科学・芸術文化学についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。</p> <p>【入学選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 多様な学生を受け入れるため、年2回の入学選抜を実施する。また社会人入試及び外国人留学生入試、外国人留学生特別入試(指定校推薦)を実施する。 一般入試(前期日程・後期日程) 筆記試験、口述試験、学業成績証明書及び志望理由書、研究計画書等を総合的に評価する。 社会人入試 筆記試験、口述試験、学業成績証明書及び志望理由書、研究計画書等を総合的に評価する。 外国人留学生入試 筆記試験、口述試験、学業成績証明書及び志望理由書、研究計画書等を総合的に評価する。 外国人留学生特別入試(指定校推薦) 書類審査、口述試験等を総合的に評価する。</p>
【到達目標及び到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 人文、芸術に関わる諸分野についての基盤的学識や、論理的思考力及び俯瞰力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 共通科目の単位修得を通じて、人文、芸術に関わる諸分野についての基盤的な論点を説明することができる。</p>	<p>【学修内容】 研究科共通科目の単位を4単位以上修得する。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 各科目のシラバスに明記した基準により、成績評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 本プログラムにおいて学修するために必要かつ十分な基礎学力を備えている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 自らの専門分野に関する高い研究能力、深い学識及び高度の専門性を要する職業に必要な実践的能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 自らの専門分野に関する専門科目の単位修得を通じて専門分野に関する専門的な論点を説明することができる。かつ「修士論文」又は「特定の課題についての研究成果(修了制作と副論文)」の審査あるいは最終試験に合格している。</p>	<p>【学修内容】 「特論」で、自らの専門分野の専門的な知識や方法論などを学び、「特論演習」、「特別演習」で、専門に特化した文献・史料などの高度な読解力及び実験や調査の手法、資料の分析方法、作品制作のための技法等を修得する。</p> <p>【学修方法】 自らの専門分野に関する専門科目により学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験やレポートにより、到達度を客観的に評価する。「修士論文」又は「特定の課題についての研究成果(修了制作と副論文)」は他分野の教員を含む複数の教員の講評をもとに成績評価をする。</p>	<p>【求める資質・能力】 各専門分野についての強い関心と基礎的な知識及び能力を身に付けている。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 研究倫理に関する規範意識を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 研究倫理に則り、修士論文、作品を完成させることができる。</p>	<p>【学修内容】 研究倫理に関する規範意識を、他分野の事例も参照しつつ、それぞれの専門における事例に基づき学修する。</p> <p>【学修方法】 主指導教員及び副指導教員による指導を通して、学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 修士論文、作品は、複数の審査員によって評価する。なお、審査員のうち一名は、他分野の教員から選ぶことにより、審査の客観性を保つと同時に多面的な評価を行う。</p>	<p>【求める資質・能力】 人文、芸術に関わる諸分野についての専門的知見と高い倫理観に基づき、社会に貢献しようとする強い意欲を備えている。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 人文、芸術に関わる諸分野において、新たな知を見出し、その知から更なる価値を生み出す能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 新たな知を提示し、かつ新たな価値の創造につながる修士論文、作品を完成させている。</p>	<p>【学修内容】 主として「課題研究」における主指導教員及び副指導教員による多面的指導を通して、新たな知見の獲得、価値の創造に導く学修を行う。</p> <p>【学修方法】 主として「課題研究」における主指導教員及び副指導教員による多面的指導を通して修士論文、作品を完成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 修士論文、作品は、複数の審査員によって評価する。なお、審査員の一名は、他分野の教員から選ぶことにより、審査の客観性を保つと同時に多面的な評価を行う。</p>	<p>【求める資質・能力】 論理的思考力と創造性を持ち、人文、芸術に関わる諸分野についての発展に寄与しようとする強い意欲を備えている。</p>

人文社会芸術総合研究科(共創経済プログラム)の三つのポリシー 【修士(経済学、経営学)】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)	研究科(専攻・プログラム)・学環(プログラム)の教育研究上の目的
本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。	共創経済プログラムは、「人」と「地」の健康について地域振興に寄与する高度専門家養成機関として貢献する。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修士認定・学位授与の方針】 本プログラムは、当該専攻の授業科目を履修して、基準となる単位数を修得し、かつ、研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士(経済学、経営学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 本プログラムでは、修士認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた4つの能力を修得できるよう共創経済プログラムに関わる専門分野(経済学、経営学、法学、デザイン学)の体系的な学修を可能とする教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 全学共通科目、研究科共通科目を通じて多面的な視野をもち、専門的知識とともに、ディスカッションやプレゼンテーションの能力など、社会人として必要なコミュニケーション能力を獲得し、社会に貢献できる力を醸成できるよう、担当教員(主査、副査、複数の教員による指導)による研究指導を実施する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 社会科学についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、社会の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般入試 一般入試では、「志願理由書」と入学後の研究の進め方を記述した「研究計画書」の提出並びに「口述試験(プレゼンテーションを含む)」を課し、これらから学修意欲、問題設定能力、研究遂行能力等を総合的に評価して多様な学生を選抜する。 推薦入試 推薦入試では、「志願理由書」と入学後の研究の進め方を記述した「研究計画書」の提出並びに「口述試験(プレゼンテーションを含む)」を課し、これらから学修意欲、問題設定能力、研究遂行能力等を総合的に評価して多様な学生を選抜する。 外国人留学生特別入試(指定校推薦) 外国人留学生特別入試(指定校推薦)では、「志願理由書」と入学後の研究の進め方を記述した「研究計画書」の提出並びに「口述試験(プレゼンテーションを含む)」を課し、これらから学修意欲、問題設定能力、研究遂行能力等を総合的に評価して多様な学生を選抜する。</p>
【到達目標及び到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 共創経済に関する基本的な知識と幅広い視点を修得し、経済・経営現象の全体像を体系的に把握する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 共創経済に関する基本的な論点を関連諸分野と関係づけて理解し体系立てて説明できる。</p>	<p>【学修内容】 複雑で多様な現代社会の現象を捉える上で必須の多角的で幅広い視点を身に付けるため、経済学、経営学、法学、デザイン学の各専門分野の基礎的概念、理論、学説及び方法論を学修する。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業とともに、実務経験者によるPBLによって学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 本プログラムにおいて幅広い知識や多角的な視点を修得する上で必要となる視野の広さと柔軟性を備えている。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 高度な経済学、経営学、法学、デザイン学の専門的な知識と技能を駆使して研究を遂行する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 共創経済に関する研究文献・資料を正しく理解し、研究課題に適した調査・分析の手法を用いることができる。</p>	<p>【学修内容】 高度な専門的能力を身に付けるため、専攻分野の研究に必要な文献購読及び調査・分析の知識と技能を学修する。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業とともに、実務経験者によるPBLによって学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 専門的な知識と技能を修得する上で必要となる基礎学力と学修意欲を備えている。</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】 高い研究倫理と社会的良識を持って研究を遂行する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 研究者倫理・行動規範に則って学術論文を作成できる。</p>	<p>【学修内容】 研究者が一連の研究活動(課題設定、調査設計、データ解析、文献・資料の引用、成果発表など)を遂行する上で遵守すべき研究倫理を学修する。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業担当教員及び修士論文の指導教員が個別に指導するとともに富山大学研究者倫理・行動規範に基づき教育・研究指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。修士論文が富山大学研究者倫理・行動規範に則って作成されている。</p>	<p>【求める資質・能力】 倫理的に妥当で社会に受容される研究を遂行する上で必要となる誠実さと公正さを備えている。</p>
<p>創造力</p> <p>【学修成果】 現代社会が抱える諸課題の発見・分析・解決に役立つとともに、専攻する研究領域の発展・充実に寄与する独創的な研究を遂行する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 先行研究の展開を踏まえ、独創的で有用な学術論文を作成できる。</p>	<p>【学修内容】 独創的で有用な研究成果を生み出す能力を身に付けるために、現代社会が直面する様々な課題の発見・分析・解決に必要な知識と技能を学修する。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業担当教員及び修士論文の指導教員が個別に指導するとともに、実務経験者によるPBLによって学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。修士論文において専攻分野の研究課題の発見・分析・解決に寄与する新たな知見が提示されているかを審査する。</p>	<p>【求める資質・能力】 現代社会が抱える様々な課題を発見・分析し、それらの解決策を考え抜く上で必要となる洞察力と胆力を備えている。</p>